



2020年4月

第298号

The Service Club of The YMCA

東京八王子 ワイズメンズクラブ

会長 並木 信一
副会長 花輪 宗命・久保田貞視
書記 多河敏子・長谷川あや子
会計 小口 多津子
直前会長 久保田貞視
担当主事 中里 敦
ブリテン 山本 英次・茂木 稔
大久保 重子・多河 敏子

国際会長 Jennifer Jones (オーストラリア) 主題 Building today for a better tomorrow スローガン On the MOVE!! 「さあ動こう!!」
アジア太平洋地域会長 田中博之 (東京多摩みなみ) 主題 Action 「アクション」
スローガン “With Pride and Pleasure” 「誇りと喜びを持って」
東日本区理事 山田敏明 (十勝) 主題: 勇気ある変革、愛ある行動!
副題: みんなで力を合わせて、1・2・3
あずさ部部長 赤羽美栄子 (松本) 主題: あなたの入会時の“ときめき”と多くの経験をワイズのために!
クラブ会長 並木信一 主題: 誰かに、何かに、必要とされたい!

4月例会プログラム

新型コロナウイルスの影響で中止

日時: 2020年4月11日(土)

八王子市北野事務所2階会議室

担当 B 班(福田、並木信、花輪、望月、久保田)

巻頭言

「高尾の森わくわくビレッジを去るにあたって」

館長 古市 健

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、安倍晋三首相は4月7日に緊急事態を宣言いたしました。高尾の森わくわくビレッジは緊急事態宣言に先立って4月4日から臨時休館をすることを決断。5月6日まで臨時休館が続く見込みです。

臨時休館という未曾有の状況が立ち上がる間際の3月31日、私は高尾の森わくわくビレッジを去り、4月1日付で東京YMCA 本部事務局総務部へ配置転換となりました。私は2005年に高尾の森わくわくビレッジが開業する1ヵ月前から、この3月いっぱいまで、実に15年という長きに亘り、高尾にて勤めを果たしてまいりました。新卒1年目から現場で様々な経験をする機会が与えられ、事務主任、事務局長とステップを踏ませていただき、2015年から2年間を副館長、2017年から3年間は館長として現場を預かる経験もさせていただいた間を一言で述べられるほどの心の整理ができておりま

せん。

しかし痛感していますのは、この15年間いつも周りのスタッフに支えられ仕事をしてきたという感謝の思いです。私のような若輩者がわくわくビレッジの館長という大役を務められたのは、スタッフの支えあってのものだと確信しております。

館長になってからは、八王子ワイズメンズクラブのお仲間にも入れていただきました。しかしながら、館長とはいえ現場をなかなか離れられない体制の中で、例会にも多く参加することができず、大変に心苦しい思いをしておりました。そんな私を例会に顔を出せば常に皆様は温かく迎えていただきましたこと、心より感謝を申し上げます。4月より、早稲田の財団本部事務局にて一から出直しております。また皆様にお会いできます日を楽しみにしておりますとともに、末筆ながら八王子ワイズメンズクラブの益々のご繁栄を心よりお祈り申し上げます。

先月の例会ポイント (3月)

例会中止

在籍	16名	BF ポイント	
		切手 (国内・海外)	0g
		年間累計	560g
		現金	0円
		累計	0円
		スマイル	0円
		累計	69,323円
		オークション	0円
ひつじぐも	0名	累計	0円

今月の聖句(2020年4月)

その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸にはみな鍵をかけていた。そこへ、イエスがきて真中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。そう言って、手と脇腹とをお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。(ヨハネによる福音書 20:19~20 一聖書協会共同訳聖書)

新型コロナウイルス感染拡大に対応して

会長 並木 信一

4月中旬現在、新型コロナウイルスの感染拡大は、なお止まるところをしりません。政府からは緊急事態宣言が発表され、地方行政機関からは対応する具体的な指示や要請が出されています。世界経済に関連しては、1929年にはじまる世界大恐慌をしのぐ問題とも指摘される事態となりました。このような中で、日常生活に必要な多くの業種の生業の休業が要請され、また、私たちの日常生活行動においても、外出の自粛が求められる等、細部にいたる制約が生じています。今、私たちに求められ、また、出来ることは、自らが感染拡大の要因にならないために外出を控え、他者との直接接触を回避するために物理的な行動を抑制することでしょう。なお、加えれば、このような事態の結果、物心両面に多くの困難を抱えている人々や、感染の予防や治療に日夜献身しておられる医療従事者の方々に心を寄せることでしょうか。

さて、この中で、私たち、東京八王子ワイズメンズクラブも3月・4月のすべての集会プログラムを中止しました。状況と、これへの対応は、東西日本区、各部、各クラブ、同様となっており、5月・6月の主要なイベント、集会プログラムも中止されています。

当クラブの今後のプログラムの見直しについてですが、先ずは、5月第一例会（23日）6月第一例会（13日）について、既に依頼していたゲスト卓話者については、これをキャンセルさせていただきました。例会の集会自体については、現時点で中止の決定をしていませんが、クラブの会場として

お借りしている北野事務所等、市の公共集会施設はコロナウイルスに関わる事態の推移を見守ることとして、6月以降の集会室利用予約を停止しています。従って、会場予約は取れない状況となっています。何もせずに手を拱いてよいのかとの思いもありますが、この事については、今後の状況変化を見守りながら、柔軟に対応していきたいと思えます。其々、個人の生活においても、大切な予定や計画をキャンセルしなければならないこととなっていることと思えますが、今は、齎される状況を受け止め、おかれた場の中で最善と思える行動をとることを考えて日々を過ごしていきたいと思えます。

平安を祈ります。

4月第一例会を開催中止としたため、卓話を依頼していた、「鶴 清忠さん」に寄稿していただきました。鶴さんは、「東京多摩いのちの電話」の生みの親といっても過言ではなく、立川YMCA 担当主事であった時、YMCA内外の各方面と交渉、開設に尽力されました。「東京多摩いのちの電話」の初代事務局長であり、東京多摩ワイズメンズクラブの担当主事もされ、現在は、新設の東京YMCA「ねがい保育園」の事務長をしておられます。
文：並木信一

東京多摩いのちの電話 ～設立への思いと今～

東京多摩いのちの電話財務委員長 鶴 清忠

1985年6月1日正午、東京多摩いのちの電話は最初の相談電話を受けました。その電話を受けたのは、国際基督教大学の星野命教授でした。星野先生は、研修陣の中心的な存在で、相談員の研修・育成に尽力されました。「研修の多摩」と言われ、星野先生を含め多摩地域の大学の心理学者、精神科医、弁護士などが熱心に協力されました。

これに先立つ2年前の冬、都内のボランティアの会議で、東京いのちの電話の総主事齋藤友紀雄氏との出会いがありました。4月に立川YMCAへの異動が決まっていた私は、東京いのちの電話が多摩地域での活動を検討しているとの構想を聞き、立川での設立の可能性を申し出ました。立川YMCAは小さな拠点で、事務スペースと会議スペースが棚で仕切られた1室のみで、東京多摩ワイズの例会が10名程で行われると手狭な状況でした。東京多摩ワイズの太田太さん、伊佐節子さん、五十嵐滋さんたちは、新米主事の私の提案に賛同してくださり、一緒に汗を流されました。設立準備委員会を発足させると、委員を引き受け、太田さんは財務委員長となって資金集めなどで、この運動の大黒柱として長年にわたり支えてくださいました。

このように、東京多摩いのちの電話は、東京YMCAの組織としての全面的な協力と関係者の熱心な奉仕があって開局しました。準備委員会の会場となった立川YMCAの会館、運営委員長に就任された小林道彦総主事、私は事務局長として協力しました。歴代の事務局長も、並木さん、殖栗さん、平松さんなど私の元上司や先輩主事の方々がご奉仕されました。また、八王子ワイズを始めとする在京ワイズの方々、西東京センター、山中湖センターなど、東京YMCAの会員やセンターの財政的な支えは今日も続いています。

37年前、250名余りの相談員志願者は事前の選考で180名に絞られ、2年間の研修を終えて認定された相談員

特 別 寄 稿 文

は約 130 名でした。今日、いのちの電話を取り巻く状況は大きく変化し、相談員を志す方が激減しています(毎年 10 名程度)。一時期 250 名を超えた相談員は開設当初の 130 名を割り、高齢化(72 才定年)も急速に進展しています。これに伴い、相談件数も年間平均 16,000 件以上から、昨年は 13,000 件余りに減少しています。これは決して電話を必要とされている方が減っているわけではありません。

現在、東京多摩いのちの電話は、設立以来の危機に直面しています。新型コロナに伴う、緊急事態宣言を受けて、苦渋の決断＝相談事業の一時停止＝をしました。また、相談員の減少に加えて運営経費(年間 1,500 万)を集める困難も増えています。それでも、35 年前に点火された灯を、“世の光”として、悩める方の希望の光として、これからも絶やさぬように願っています。

皆様の長年のお支えを心から感謝申し上げますとともに、引き続きのご支援をお願い申し上げます。

わくわくヴィレッジ正面ロータリーの花壇

茂木 稔

3月24日の北風の強い快晴の日に、昨年11月に植えた球根の花が咲く始めたところをヴィレッジに確認に行きました。これらは11月の末に会員5人とボランティアの一人により、芝生を掘り起こして植えたものなのです。

クロッカスの黄色と白い花はすでに終わり、紫色だけが咲いています。隣には黄色のラッパスイセンが今は盛りに咲き誇っています。続いて黄色と白い矮性のチューリップが、まだ咲き出していないつぼみも含めて咲き出しています。これらはロータリーに植えるので風が強く当たることを考えて花が倒れることを考えて、敢えて矮性のものを選びました。

これらの球根を植えるときに、黄色の春の色を中心に咲き出す花々をイメージして植えたものですが、実際には咲き出しの時期が少しずつ異なっていたので、それらの花色が思ったようにはアピール出来ていませんでした。

大きな失敗は赤の色のものを加えてなかったことです。同じ時に我が家の庭に植えたものはチューリップの矮性赤色がまず咲き出し、庭を明るく染めています。もうひとつの問題点は植えたロータリーの部分が、地面よりも 60cmほど上になっているので、土が乾燥して水が不足しているのが解ります。これが続くと肥料分は沢山入れてありますが、来年の春は球根が大きくなっているかが心配です。

今年は試験的に言うことで球根の数を半分にしたので、来年は赤色のチューリップを白色の花の間に植えつければ、赤と白とのコントラストが見事な花壇が期待出来そうです。

高尾わくわくヴィレッジ便り

館長 菅野 牧夫

八王子ワイズの皆様

この度は古市健の後任といたしまして、4月1日よりわくわくヴィレッジの館長に就任いたしました菅野牧夫でございます。

微力ではございますがわくわくヴィレッジの発展や八王子ワイズの皆様との関係強化に力を尽くして参りたいと思っております。今後とも引き続きご指導を賜りますようお願い申し上げます。

昨年秋にわくわくヴィレッジロータリーの花壇にワイズの皆さんに植えていただいた球根たちが花を咲かせました。球根植えの際は皆様にご協力いただきありがとうございました。今年は3月、4月のおお客様のキャンセルが立て続けに入り、お客様の目に触れる機会が少なかったのですが、春の暖かな日差しの中で元気に咲き誇っていました。来年はたくさんの方の目に触れることを願っています。

わくわくヴィレッジも新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、4月4日(土)～5月6日(水・祝)の期間で休館を決めました。スタッフたちは休館に伴う予約の取り消し業務でバタバタしておりましたが、今は少し落ち着いてまいりました。休館期間中はスタッフも交代で出勤して、できるだけ少人数で運営しています。館内は事務所以外電気も消えてひっそりとし、もの悲しい雰囲気となっています。

しかしこんな時だからできることを考えています。事務所の断捨離を少し行いました。16年間のたまりにたまったものはなかなか手ごわいですが少しずつ進めていこうと考えています。まだまだ先が見えなくて不安な気持ちがつきまいますが、スタッフ一同明るさを忘れずに、協力しながらこの苦境を乗り切っていきたいと思っております。これからもよろしくお願い申し上げます。



わくわくヴィレッジ花壇の前で

西東京センター便り

西東京主任主事 中里 敦

今年も国立の桜は美しく、大学通りでは多くの人が足を止め桜の花を写真におさめています。その姿は外出自粛要請の中、ゆっくりと花を愛でることで少しは不安やストレスが軽くなっているように感じます。また、国立駅南口に昔の三角屋根の駅舎工事の外壁も取り外され姿を現しました。本来ならば桜と合わせて楽しめる季節だったと思いますが、足早に横を通り過ぎていきます。

ご承知のとおり東京 YMCA のプログラムは、ほぼ3月から中止となっています。西東京センターのプログラムもすべて5月のGW明けからとなりました。これも予定とおりに実施できることを願うばかりです。ただ、中止、延期の連絡だけでなく、子どもたち、会員の方が楽しみに待てるように、YMCA とつながっていることを感じられるようにとの工夫もしています。早く子どもたち、会員の方々と会えることを楽しみにしています。

さて、4月は異動の季節でもあります。西東京センターも動きがありました。出沼さん、沖津さん、古明地さんは変わりなく、中里も変わらず主任主事として働きを与えられました。事務をしていた濱島さんは退職し新たな働きを見つけ、池端さんはグランチャ東雲に異動となり、コミュニティーセンターとはまた違った働きを求められることとなりました。お二人の新たな道が守られることを祈ります。そして、新しく迎えたのは、事務の鈴木麻子さん、新入職員の郷進太郎さんです。明るく、話もよくされる社交的なお二人です。事務所の中は今までとおおり、和やかな雰囲気になっています。お会いする機会があるかと思いますがよろしく願いいたします。また、ぜひ西東京センターにも足をお運びください。お待ちしております！

中大ひつじぐも便り

中大ひつじぐも3年 木下亮太

初めまして。ひつじぐも副委員長の木下亮太と申します。この度は八王子ワイズメンズクラブの月刊誌に文章を書かせていただくこと、大変うれしく思います。

現在、世間では新型コロナウイルスの影響がとどまることなく広がっています。東京都においては先日緊急事態宣言が出される事態となり、現在ひつじぐもの部員たちも事態の収束を望みつつ、自宅で日々を過ごしている状況です。

このような状況の中では、先の見えない状況に押しつぶされそうになることもあると思います。しかし、私自身はこのような状況の中で自分にできること、やらなければいけないことを見出していきたいと考えています。まず、はじめに自分にできることとして思い浮かぶのは、外出自粛、そして手洗いがいの徹底でしょう。しかし、私としてはそれだけでなく、自分自身を向上させる時間でありたいと思っています。ひつじぐもとしては、新入生に入会してもらうために、SNS等の活用を力を入れていこうとしています。もちろんこの事態ですから例年通りのことをやっていたらうまくいかないの、より一層の工夫を凝らす必要が出てきます。その工夫を考えるのは非常に難しいところではありますが、そういったことを考え、実行していくことで自らの成長につながると考えています。それ以外に、思いもよらず家で過ごすことになった勉強や読書に費やすことでも自分自身の成長につなげていきたいと考えています。

最後に、現在このような状況ではありますが、この事態が収束した時に、ひつじぐものメンバーと八王子ワイズメンズクラブの皆さんとお互い元気な姿で交流できるようになることを願ってこの文章を閉じさせていただきたいと思います。

今月の聖句によせて (2020年4月)

イエス・キリストの生涯をうたう讃美歌の一つに「121番」(日本基督教団・讃美歌委員会編集)があります。3番の歌詞は、「すべてのものを あたえしすえ、死のほかなにも むくいられで、十字架のうえに あげられつつ、敵をゆるしし この人を見よ」、4番は「この人を見よ、この人にぞ、こよなき愛は あらわれたる、この人を見よ、この人こそ、人となりたる 活ける神なれ」という歌詞です。

母が好きであった讃美歌で、子どものころ、教えられて良く歌っていました。歌詞の意味はよくわかっていなかったのですが、いつしか私にとっても愛唱讃美歌の一つになりました。教会での今年の受難週の礼拝でも歌いました。

今月の聖句には、罪なくして罪人として裁かれ、一人十字架の上の死を遂げられ、そして、復活を遂げられ、弟子たちの前に姿を現された、その場面が記されています。復活が明らかにされた場面です。しかし、「弟子たちは、主を見て喜んだ。」とある箇所、単純に感動出来ない自分を思います。イエスが捕縛され、十字架に向かう時、「あなたは、イエスの弟子のひとりではないか」と群衆の中の一人から問われたペテロが「いや、そうではない」と答えた、と言う記述の中に、どうしても自分自身を見いだしてしまうからです。イースターを迎える時、イエスの生涯に思いを馳せつつ、なお、また、自らの弱さをも思わされるのです。

今年のイースターは4月12日です。

並木信一

「高尾わくわくたより」 さよならの原稿

館長 古市 健

先月の本稿にて、1月をボトムとして2月3月と徐々に宿泊者が多くなるとの表現をいたしました。実際に2月はおおよそ2,000名、3月はおおよそ3,000名のご宿泊の予約が入ってもおりました。しかしながら、今や全世界に影響を及ぼしているコロナウイルス感染への危惧によって、多くのお客様が止む無くキャンセルをご決断し、その連絡を日々に何件も何件も受ける日が続くこととなってしまいました。2月の宿泊者数は結果的に1,500名を割り込みました。就職を控えた大学3年生が就職について学ぶ200名2泊の研修が直前にキャンセルとなってしまった影響が大きく出ました。また、3月に至っては3,000名の予約が本稿を執筆している時点で700名近くにまで減少、この2月3月の2ヶ月だけで実に2,500名を優に超えるキャンセルが発生したこととなります。更には年度を跨いだ4月から7月の予約までも影響が出始めており、次年度も既に3,000名近いキャンセルが発生し、このキャンセルの波は、鎮静化してはきたものの、未だ断続的に続いており終息が見通せない状況にあります。先日、15年のお付き合いとなる専門学校の方がご来館になり、4月の予約のキャンセルを承りました。事務的な手続きを終えた後、先生から、いつも利用しているわくわくビレッジで今年も新入生研修をやりたいが、今年のこの状況を踏まえ、断腸の思いでキャンセルをすること、次年度以降は、またわくわくビレッジを使いたいことなど、ありがたいお言葉をかけていただくことができました。キャンセルが続く今の状況は、当館にとって非常に厳しい状況であります。しかしながら、この先生がかけて下さった言葉を胸に、引き続き前を向いて職務にあたる所存です。



4月のお誕生日
久保田 貞視さん 4月8日

新型コロナウイルスの世界的流行

この危機を、力を合わせて乗り越え、人類への私たちの奉仕を続けましょう

ご存じのように、世界中のすべての人々、機関、政府、組織は、歴史上初めて、祈りと命を守る行動を促す共通のメッセージとともに団結しています。新型コロナウイルスの世界的流行は、地球上のすべての地域に広がっています。恐怖とパニック、痛みと苦しみ、そしてウイルスおよび私たちがこれに十分に対応できないことについての疑念と誤った情報があります。苦しみと悲劇の物語の中であって、純然とした優しさと豊かな愛、連帯の物語もあり、そして、多くの国で対応している私たちのクラブとYMCAによる革新的かつ驚くべき方法での希望と平和の共有の物語もあります。

私たちが奉仕できる道には多くの制約がありますが、私たちは、社会的責任を負う組織として、この危機において最も脆弱な人々、すなわち、貧しい人々、高齢の人々のニーズを考慮することを皆さまに強くお勧めします。この重大な危機の中で、私たちは、リーダーシップを提供する人々や世界中の政府のために祈りを捧げ、貧困に暮らす人々、難民および他の疎外された人々に優先的に関心を払うことを促します。

今のこの、家に留まらなければならない期間、クラブメンバーは、電話やオンライン環境を通じてコミュニケーションを維持することによって、深い連帯と友情を経験してください。全ての地のメンバーと家族の皆さまには、この状況に対処することを最優先し、また、生命を守るための私たちの集団的な努力で、私たちができるあらゆる方法でご支援いただくことをお願いいたします。神の無条件の愛を、生命を守り、苦しみを軽減する、安全で実行可能な方法で示し、クラブが前向きさと希望の源となることを確かなものとさせましょう。このところ皆さまは、家に留まっていなくてはならないかもしれません。しかし、肉体的に距離を置くことは、他者からの感情的な孤立を意味するものではありません。世界中のクラブに対して、貧しい人々、病人、疎外された人々、高齢者、特に、サービスの物理的なシャットダウンによって最も危険にさらされているすべての人々に安全に奉仕し、必要なものを提供し、世話をすることで、社会におけるクラブの役割を再度見直していただくことをお願いいたします。

私たちのウェブサイト <https://www.ysmen.org/covid-19> を通じて皆さまの考えと行動を共有していただくことによって、世界中のメンバーが皆さまの知恵と創造性を広く共にすることできるようになれば幸いです。

私たちは、世界がこの危機を、力を合わせて克服し、私たちの人類への奉仕を継続していくことを確信しています。神が皆さまを祝福し、安全に保ちますように。

心をこめて

国際会長 ジュニファー・ジョーンズ